

議長（大西慶治君） 通告順3番、伊藤勇三郎議員の一般質問を行いますので、伊藤勇三郎議員は質問席へ移動してください。

それでは通告順3番、伊藤勇三郎議員の発言を許可します。

（14番 伊藤勇三郎議員 登壇）

14番（伊藤勇三郎君） 今回、町長に対して2点質問させていただきます。まず第1点目ですが、巨大地震に対して備えは万全かということでございます。政府は中央防災会議を開き、本年4月21日に将来の発生が予測されています3つの巨大地震であります東海地震、東南海地震、南海地震がほぼ同時に起こり、超巨大地震になった場合に想定される被害の都道府県別の内訳を公表しました。

この中で、三重県は死者が2600人、家屋の全壊が5万1000棟、そのほか家屋の半壊、一部損壊とか、あるいは負傷者等もあわせると、相当の被害に達する予測でございます。これを受けて政府は今年9月1日の総合防災訓練で、初めてこの3つの巨大地震が連動した場合の訓練を実施しますが、当町ではどのような訓練を計画されていますか、あるいはしようとしているか、お答え願いたいと思います。

続きまして3つの巨大地震がほぼ同時に発生した場合は、四国はもちろんですが、東海近畿の地方の広範囲にわたって大災害をもたらします。当町でもあらゆるところで家屋の倒壊、あるいは火災が発生、崖崩れ、あるいは道路の崩壊等も予想され、心配されるところであります。被害が広範囲にわたるため、警察や消防等防災機関がすぐには、この当町へは来られないというように考えます。このため一番大切なことは地域住民による自主防災組織による救助活動が、当面欠かせません。

ちなみに阪神大震災において倒壊家屋で下敷きになったり、あるいは閉じ込められた方がたくさん救出されたわけですが、その85%が家族、あるいは近

隣の方たちの救助によるものであるというように調査が出ております。したがって、各区での避難訓練や救助訓練が、あるいは初期消火の訓練を回を重ねて訓練していくことが、大切だというように考えております。町が各字の区長さんを中心とした自主防災組織の育成や指導が必要であると、これについては大台町総合計画にもうたわれておりますので、町はどのように今後取り組んでいくかをお示しいただきたい。また現在、区には47あると思うんですが、自主防災組織の実態というんか、活動実態、内容をお教え願いたいのと、今後の一刻も早い指導をあわせて要望いたしたいと思います。以上です。

議長（大西慶治君） 町長。

町長（尾上武義君） それでは巨大地震の対応について、お答えをいたします。当町における防災訓練につきましては、これまでも町職員を対象とした抜き打ちによる召集訓練や、あるいは町民の皆様に参加をしていただきまして、全町挙げての夜間避難訓練等を実施してまいりました。

議員ご指摘のように東海、東南海、あるいは南海地震の発生が同時に起こったことを考えますと背筋の凍える思いでございます。今やれること、できることをやっておく必要がございます。公共用施設の耐震化、橋梁の耐震化につきましては計画的に進めているところでございますが、起こってしまったときには、どうすべきなのかというようなことで、トイレの確保はできているのか、あるいは水や食料の確保はできているのか、医療体制がちゃんと担保できるのか、安否の確認の方法なり、連絡体制はどうなっているのか、火災の対応等々そんなことを想定したシュミレーション訓練など、やるべき課題が山積をしているのも事実でございます。

今年度は昨年度から各ご家庭等に設置をさせていただきました防災行政無線の戸別受信機や、各区に配布をいたしました可搬型の防災行政無線機を活用した訓練を実施をいたしたいと考えているところであります。詳細な内容や実施の日時につきましては未定でございますが、関係機関と調整させていただいて実施に移していきたいと考えているところであります。

2点目の自主防災組織につきましては、平成19年度の区長連絡員会議において、区単位での自主防災体制づくりをお願いをし、この中で「自主防災計画の策定」や高齢者や体の不自由な方々等を対象とした「要援護者台帳」の作成をお願いをいたしました。その後平成20年度には、自主防災組織と連携し全町的に防災避難訓練を実施し、夜間にも関わらず3362名のご参加をいただいたところでございます。

個々の活動の実態につきましては、すべての組織について把握しておりませんが、佐原区を例に挙げますと、佐原区では家屋が密集している地域柄、主として地震時に想定される火災発生による被害を最小限に食い止めるために、初期消火班を17の町内会ごとに、5人ずつ配置をし、秋の出会い作業の際にはご婦人方を対象とした消火栓取り扱いの訓練を行ったり、消火設備や避難所の位置を表わした図面を各家庭に配布したり、要援護者のリストについても適宜見直しを図る等、積極的な取り組みを行っていただいております。

その他の地区にありましても、地域の実情に則して、その頻度や内容は異なりますが、消防団などと連携し出会い作業など多くの区民の方が参加される機会をとらえて訓練を行うなど、独自の取り組みを行っていただいております。議員ご指摘のように道路が寸断された場合などを想定しますとき、地域が一番頼りとするのは、地域自らが立ち上げた自主防災組織でございます。今後は、区長連絡員会議等において、各区の取り組み実例をご紹介いただいたり、他の市町における自主防災の取り組み等も参考とさせていただき、高齢化が進む人口動態や地理的要因など、大台町の現状に則した自主防災活動への取り組みを強化してまいりたいと考えているところであります。ご理解をお願いし、答弁いたします。

議長（大西慶治君） 伊藤勇三郎議員。

14番（伊藤勇三郎君） 非常によくわかりました。今年の5月20日に政府の地震調査委員会が、本年度の全国地震動予測地図を公表されたわけですが、この中でこの3つの地震について、巨大地震の起こる確立が太平洋側では相当

上昇しておると、日本海側では比較的逆に発生確率が落ちておるわけですが、このことありまして、今町長が言われた、ご答弁いただいたこと、できるだけ早期に各連絡員、区長さん等をお願いして、一刻も早く自主防災体制の確立、またその自主防災組織が適正な訓練ができるように要請していただくよう、町長のお考えを改めて問います。

議長（大西慶治君） 町長。

町長（尾上武義君） これは口締疫なんかも当然関連をしてくるようなことなんです、同じようなことなんです、起ってしまったから出してもこれあきませんので、いつ起ってもいいような形で対応していかなば、100%までいきませんが、それに近いような形で対応することができないというふうなことでもございますので、先ほど申し上げました食料なり、トイレの確保なり、いろんなものをやっぱり普段から蓄積をしていかないと、これ駄目だということで、担当に言っておりますのは、要するに図上訓練なんかもやって、大台町のこの広い範囲の中で、あそこで火災が発生した。あるいは水道管が破裂した。水が来ない、怪我人が出た。じゃ医療はどうなんやとかいうようなこと、いろんなその場面を想定しながらですね、やっていくということ非常に大事なんでありまして、一回それもう早いとこ、そういうこともひとつこの町内でもできるような格好で取り組めよと、こう言っているところでもございます。

よりリアルな形でやっていかないと、何と言いますか、危ないなという漠然とその危機感を持っていてもこれいきませんので、具体的にそれを進めていかなば町民の皆さんにも危機感はなかなか移っていかないというようなことでもございますので、十分そこら辺は細かくですね、対応できるような格好で進めていかなばならんと、こう思っているところでございます。とりわけ要援護者の皆さんですね、こういったリストなんかもつくっていただいておりますが、そこら辺も踏まえて、またこれも更新もしていかななくちゃなりませんし、佐原区なんかの例も挙げながらですね、やっていく必要もあるだろうというふうに思いますが、要はその起こったらどうするかということよりも、起こる前にと

うしていくかという、そのこちら側の行動が非常に求められているんだというふうに思っておりますし、そこら辺の意識は持っておりますが、今後十分ですね、対応を図ってまいりたいというふうなこと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

議長（大西慶治君） 伊藤勇三郎議員。

14番（伊藤勇三郎君） ありがとうございます。第1問はこれで終わりたいと思ひます。

続いて第2問でございますが、これは町長も常日ごろ言われておるわけですが、町民と町との協働による町づくりについてでございます。毎年予算編成時期になりますと、各区長さんから町に対し、多くの事業の要望がありますが、町の財政上の理由等から要望の一部しか実施できないのが現状であろうかと思ひます。現在、区長さんからの要望により町道補修のためレミファルトを支給し、住民の手で町道補修していただいている例もあり、町は財政面で、この面では助かっていることと思ひます。各区からの要望の中には、レミファルトの例にもあるように原材料さえあれば、区長さんを中心として住民の方々に事業ができるものも多くあるのではと思ひます。各区には大工さん、左官屋さん、ペンキ屋さん等その道の技術者がたくさんおられます。原材料を町が支給できれば、自分たちの町は自分たちの手で町づくりを行い、郷土愛の精神の育成にもつながり、また町の財政も助かることと思われまふ。

そこで、協働による町づくりの立場から、町が積極的に各区長さん方に働きかけ、原材料を区へ提供して事業の推進にあたってはと思ひますが、町長のお考えをお聞かせいただきたいと思ひます。なお、区によっては技術者や指導できる方がいない場合は、町職員やあるいは町が委託した技術者、あるいは監督できる人を区へ派遣し、事業の推進をしてはと思ひますが、この点についても町長のお考えをお聞かせ願ひたいと思ひます。

議長（大西慶治君） 町長。

町長（尾上武義君） それでは町民との協働による町づくりについて、お答

えいたします。

町民の皆様には平素から清掃活動や草刈りなど、道路の維持管理につきましてご協力、ご尽力をいただいております、厚く御礼を申し上げたいと思います。

また、各区長さんや町政懇談会で道路改良や側溝整備等多くの要望もいただきまして、現地を調査し、緊急性、財政面等を考慮しながら、順次その要望に対応させていただいております。特に今年度は国の緊急経済対策によるきめ細やかな交付金を活用して、より多くの要望に応えさせていただけるものと考えております。また道路の簡易な補修につきましても、以前から舗装の修繕にレミファルトなどの原材料を支給し、地域の皆様で実施していただいたり、昨年度は側溝蓋の材料を支給し地域の皆様により、設置していただいた地区もございました。地域の道路を自分たちで補修していただけることは、大変ありがたいことであると考えておまして、本年度も土木費の原材料費で、昨年度より20万円増額して、200万円の予算を認めていただいておりますので、今後とも積極的に区長様等をお願いをしていきたいと思っております。

しかしながら、専門的な技術者や重機等が必要な工事は作業そのものに危険性が伴い、けが、事故等が懸念されますことから、従来どうり建設業者をお願いをしていきたいと、この部分は考えているところであります。町民の皆様には原材料支給による補修等危険性の少ない軽作業を地元の技術者の皆様の協力を得て、実施していただければ大変ありがたいと思っております。

このほか環境保全の面でクリーン運動や、あるいは沿道の花づくり、資源ごみ等の回収、減量化をはじめ、農業用施設の改修や交通安全指導、あるいは歴史、文化活動など実にさまざまな分野で協働をいただいております、このような活動が進展することによりまして、さらに愛着が深まり、誇り高い地域づくりにつながるものと、多いなる期待を持っているところでございますので、ご理解をお願いし、答弁いたします。

議長（大西慶治君） 伊藤勇三郎議員。

14番（伊藤勇三郎君） ありがとうございます。私もちょっと調査不足でありますが、今町長が答弁されたことが全区長さん方に、区長さんも総会等で変わられたりする場合もございますので、この現物、原材料支給で事業の推進があるんだという、こういう施策を町は持っているんだということを、区長連絡員会議等で徹底していただきたいというように思います。第2問はこれで終わります。ありがとうございました。

議長（大西慶治君） 町長。

町長（尾上武義君） 3年ほど前の区長会にもですね、このような予算を持つので地域でできることは地域でやってくださいよというようなことで、本当にこう軽作業ではありますけども、対応をいただいております。そのことです、少しずつこう拡大傾向にあると言いますか、そういう状況になってきているのではないかなと思っております。お住まいの上楠区でもですね、その地域内の道路をつくるんだというようなことで、頑張っていたいただいていることでもございましたし、また休憩所を材料支給というような形で補助させていただいて、皆さん出会いしてつくっていただいたりとか、そういうような活動が出てきているところでもございます。

そんなんで大変ありがたいなと思っております、そのことが本当にこう地域に愛着が出てくる。あるいは誇り高いものにつながっていくという、そのことが広がれば大台町中がすばらしい町になっていくんだなと、こう思っているところでございます。今後とも十分その意を強くしながら進めてまいりたいなとこう思っておりますので、よろしく願いをいたしたいと思っております。ありがとうございました。

議長（大西慶治君） 伊藤勇三郎議員の一般質問が終了しました。

議長（大西慶治君） しばらく休憩します。

再開は2時10分とします。

（午後 1時57分 休憩）

(午後 2時10分 再開)

議長(大西慶治君) 休憩前に引き続き会議を開きます。